

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和8年度 第1回飯田市上下水道事業運営審議会
開催日時	令和8年4月16日（木） 午後2時00分から午後3時36分まで
開催場所	飯田市役所 3階 C311～312会議室
出席委員氏名	原優、角田憲正、菅沼文秀、木下容子、羽場義人、西村よし子、上沼和則、鋤柄富男、小平節美、矢澤由美子
欠席委員氏名	大澤幸子
傍聴者	6人
出席事務局職員氏名	井田上下水道局長、加藤経営管理課長、柳澤水道課長、幾島下水道課長、竹村下水浄化センター所長、筒井経営管理課長補佐兼上水道経理係長、熊谷水道課長補佐兼浄水施設係長、塩澤水道課長補佐兼上水道整備係長、大島下水道経理係長、鳴澤料金係長、久保田経営管理課長補佐兼庶務係長
会議の概要	以下のとおり

「敬称略とする」

1 開 会

(久保田経営管理課長補佐兼庶務係長)

ただいまから、令和8年度第1回飯田市上下水道事業運営審議会を開催する。議長が選任されるまでの間、私が進行する。

2 会議の成立

(久保田庶務係長)

本日の欠席委員だが、大澤委員、1人から欠席の届があった。飯田市上下水道事業運営審議会条例第6条の規定により、会議の成立には委員11人の過半数である6人以上の出席が必要である。本日の出席委員は10人であり、会は成立している。

3 局長挨拶

(井田上下水道局長)

本日理事者が公務で出席がかなわなかったので、代って水道局長井田が挨拶をさせていただきます。本日、令和8年度ということで第1回になるが、飯田市上下水道事業運営審議会の開催に当たり、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

前回の3月23日の審議会におきましては、水道料金の改定につきまして諮問させていただき、この水道料金の改定の内容と、それに関わる24年間の水道事業経営戦略の説明をさせていただいた。委員の皆様には質問をいただいておりますので、本日もお答えしたいと考えております。さらに委員の皆様には忌憚のないご意見を賜り、ご協議いただきたい。

昨今の物価高騰等の社会状況の変化などにしっかり対応できるよう、持続可能な水道事業運営に努力してまいりたいと思うので、本日の審議会は有意義な会議になるようよろしくお願いいたします。

今日はよろしくお願いいたします。

4 会長挨拶

(鋤柄会長)

本日はお忙しい中この審議会お集まりいただき誠にありがとうございます。本日は令和8年度の第1回である。前回の3月に、水道料金の値上げについての諮問を受けている。前日も多少皆様のご意見を頂戴しているが、今日はまたそれ以上に深めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

昨今の世界情勢を考えると大変な状況なので、なかなか数字の出しづらさがあるかと思うが、忌憚のない意見をいただいて、進めてまいりたいと思う。全会一致となるよう、皆さんご協力をお願いしたい。

それでは本日よろしくお願ひしたい。

(久保田庶務係長)

続きましてこの4月1日付で人事異動があった市側の職員の紹介をさせていただく。

下水道課長の幾島である。そして先ほどから進行しておる経営管理課久保田である。以上2名が今回の人事異動で変更になった職員である。

5 公表用会議録において委員氏名を公開することの同意について

(鋤柄会長)

事務局から説明されたい。

(加藤経営管理課長)

本会議の発言の要旨の公表用会議録への記載については、記載する内容についての発言をした委員の確認を得て行うものとする。

ただし、発言した委員の氏名については、会議に出席した委員全員の同意が得られた場合に限り記載するものとしているので、本日の会議録における発言委員の氏名の公表について同意いただけるか伺う。

(鋤柄会長)

ただ今説明があった氏名の会議録への記載についていかがか。

(委員各位)

異議なし。

(鋤柄会長)

同意いただいた。会議の内容の公開にあたっては、発言された委員の氏名も併せて公開することとする。

6 協議事項

(1) 水道料金の改定について

(鋤柄会長)

前回市長から諮問を受け、説明も受けておる。本日、協議を進めていくが、まず手元に配られた質問、資料等について説明されたい。

(加藤経営管理課長)

諮問までの経過について説明。

(柳澤水道課長)

事前配布資料①から④について説明。

(加藤経営管理課長)

事前配布資料⑤、当日配布資料について説明。

(柳澤水道課長)

事前配布資料②③の質問について説明。

(加藤経営管理課長)

当日配布資料(5ページ(4)その他から)について説明。

(柳澤水道課長)

当日配布資料（10ページ）について説明。

（加藤経営管理課長）

当日配布資料（6～9ページ）、事前資料⑥⑦について説明。

（鋤柄会長）

ただいまの回答・説明について、ご質問、ご意見等があるか。

それでは皆さんの意見を伺いたいと思う。原委員の方から意見を頂きたい。

（原委員）

数字的には、なかなか膨大な資料で、しっかりした構想に基づいてされておられると思う。飯田市の水道運営につきましては、県下の市の中でも6番目ということで、飯田市は割合安い方かという印象はあったが、諸々等考えるとこういった立ち位置にあるのだなということがわかった。現行の水道施設については、50年ぐらい経っているので十分耐用年数は来ているということを見みると、ある程度の値上がりは仕方ないという意見である。現行の会計については、一般財源から持ってくるという考え方もあるが、ある意味利用運用というか、それに応じた値上げになりそうなので見方によっては公平な値上げに向かっているという感想を持っておる。基本的にはこの考え方で賛成というか、よろしいと私自身としては印象を持っておる。

（鋤柄会長）

角田委員、願います。

（角田委員）

膨大な資料というか、数字が並んだものをずっと見させていただいたが、以後立ち行かなくなるという現状は数字にしっかり現れていると思う。これがまた4年後改定になったときに、この給水人口のシミュレーションがどれくらいの下振れをするかということを考えて、また新たに先ほど同じような凄く大変なことをやらなければいけないようなシミュレーションになっているのか、減少率100%でシミュレーションをするのではなくてもう少し緩やかに減少率70%とかそんなシミュレーションをしているのか、その辺がわからなかったのでもうどうなのかと思っただが、改定せざるを得ないということはいくわかった。

（鋤柄会長）

菅沼委員、願います。

（菅沼委員）

資料についてはよく数字も積み上げてあるし、理屈づけもしっかりしているかと思うが、残念ながら前回の時には9%値上げというのが、この18%であるから倍になったということで非常に残念だ。苦渋の選択ということで、この方向性でいくしかないのかという感じはする。

細かいことを言うと、質問の4ページの下から二つ目の四角。水道事業は公営企業であるため、その料金制度は独立採算を原則とすることは理解しているが、この近年の物価高騰はあまりにも異常すぎて、その範疇を超えていると思う。昔想定したその独立採算というところ以上に物価が上がってしまって、それを全部水道事業で賄うということは、仕組みに対して無理があるという感じがする。これは飯田市だけの話ではないので、これに対する支援、あるいは財源対策というのを国県へ強く要望していただく必要があると思う。ぜひ飯田市に限らず、全国の市町村を交えてお願いしたいと思う。

それから7ページの上から二つ目。民間委託の関係だが、広域化は無理だし、県の事業団と合併も無理だろうし、なかなか難しいが、民営化は本当は選択したくない。水道を守るために技術者がいざというときに臨機応変に対応するためには、技術者の育成をしていかなければいけないのに民営化するということは反対だが、この宮城県の水道事業のような事例が出てくると、比較論というのは必ず出てくるので、これはぜひ注視をしていただいて、これに対するメリットデメリットを整理してほしいと思う。あるいは部分的にすることは可能かどうかも含めて検討していただきたいと思う。

それから7ページの下。人員増の関係である。先ほどの説明では、若返りを図る中で、人件費の単価低く抑えて技術の継承する、大事なことだと思う。技術の継承というのはなかなか今難しいと思

が、最初は若手の職員を雇うということであれば、人件費は最初のスタートラインはそんなに影響はないのかもしれないが、いずれ年を取ってくると、給料も上がってくる。人勤制度があるし、定期昇給もあるので必然的にしょうがない話であるので、理想はわかる。若返りを想定する中で、その若返った人件費で技術を継承するために若い職員をとという気持ちはわかるが、ここはぜひ慎重に検討してほしいと思う。

気がついたところはそんなところであるが、最後に、前回の改定の時には、期間を先送りして、その先送りの3ヶ月だったかとの間の足りない分に市税を入れたが、今回もそのような政策をとるかどうか、あわせてご検討をお願いしたい。

(井田局長)

菅沼委員からご質問ご意見ありましたのでお答えしたいと思う。やはり、物価高の影響は非常に大きな状況で、今回の改定の案には、今の中東情勢の経済状況は反映されていない。これも元々流動的でどうなるかという不安がある。水道事業、下水道事業だけでなく、様々な面でどこの事業体も非常に苦労している。水道事業だけで何とかしていこうとするのではなく、いろいろな面で支援を求めたいと思う。そのことはご意見としてしっかり受けとめたいと思う。

それから、民営化のお話が出た。私達が今現状で考えているのは、口に入る水道は、私達公営で守っていきたいと考えておるが、先ほどの事例にあったように様々なところで様々な民間連携を行っているので、情報を読み取りながら状況を確認しつつ、飯田市としてどうすべきか、ということは常に注視して検討していきたいと思う。

最後の職員構成で、若手の職員の人件費等のところだが、こちらは菅沼委員がおっしゃった通り今水道事業に関わっている職員が、40代50代がほとんどで20代30代はほぼいないという状況であるので、これでは持続可能な水道事業を継承していく、特に技術的に継承していくことは非常に困難な状況であることを踏まえて、若手職員を採用して今の年齢構成をバランス良くしていくことを経営戦略には謳っている。そういった若返りを図ってこの技術が継承する中では、昨今のDXやAI、いろいろなデジタル化、電子化の技術も使いながら、そういった部分は効率化を図りつつ、職員の人件費の削減は将来的には進められるのではないかと思うので、取り組みたいと思う。やはり水道事業は、最近特に頻発する災害等の激甚化、頻発する災害のリスクに備えて、しっかりと対応できる体制が求められておるので、そういった意味ではやはりマンパワー、私達の職員の技術の継承は非常に重要だと思っている。市民の水道を守るために是非取り組んでまいりたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

(鋤柄会長)

はいありがとうございました。今、菅沼委員の質問に対して細かい説明があった。

続いて羽場委員からのご意見をちょうだいする。

(羽場委員)

大変な細かな資料を毎回ありがとうございます。

大体進め方や資料のことは理解ができたのだが、収入は減るが費用がどんどんかさむので赤字になることも理解できたが、収入の面については、増加が見込めないと私も思う。ただ事業費で経費の部分、人件費その他諸々あるが、その経費の削減に是非、努力を重ねていただかないかなと思う。料金改定は致し方ないと私個人的には思う。

最後に一点、電気とかガスとか今、検針員さんはいないと思う。水道の場合は自宅にも2ヶ月に1回検針に来ていただくことになっておるが、その辺全国的な傾向としてどうなのかお聞きしたいと思う。

(井田局長)

水道のスマートメーターというものだと思う。電気料金も自動的にこうなっているというところで、水道も今のこのメーターの検針の部分について、そういうものが開発されていて、それをつけることで、電波で遠隔的に確認する等やり方はいろいろあるのだが、スマートメーターは全国的にも実証実験をしたり、あるいは効果的にどうすればいいかと進めている状況である。飯田市についてもスマートメーターを導入した場合の研究は行っている。導入に向けてどういう課題があって、どういうふうになればいいかということは、引き続き検討していきたいと思うが、現状でいくと水道のスマートメーターは、まだ非常に値段が高い。それをつけての検針で行く費用コストとメリット、その部分はまだ出てこない状況である。スマートメーターというメーターが、全国に普及

して例えばその物の値段が下がるとか、あるいは計量法で定められた検定満了というものがあり8年以内にメーターを交換するという制度があるので、電子的なスマートメーターの交換の期間が8年以上10年15年となれば交換費用も、期間が延びることで、ランニングコスト、イニシャルコスト様々に効果が出てくるのではないかと検討はしておるので、今一度飯田市についてのスマートメーターの導入については、引き続き検討してまいりたい。

(羽場委員)

はい。

(鋤柄会長)

ありがとうございました。

続きまして矢沢委員の方からお願いしたい。

(矢澤委員)

この会議に出るようになって水道料金が独立採算制であることを理解したし、それから、今回の18%の値上げも納得した。でもこれから4年後に値上げして、さらに値上げしていくわけである。そうした場合、私達の世代はまだいいのだが、未来の若い世代の方たちが10何年20年経った時に、とんでもない水道料金を払うことになってしまわないように、何とか基本的な構造的な策を、これから少しずつ考えていかないといけないのではないかと考えておる。以上である。

(鋤柄会長)

現状に関してはどう感じているか。

(矢澤委員)

現状はやむを得ないと思う。

(鋤柄会長)

はい。小平委員。

(小平委員)

とても勉強になった。いろいろな資料を見て、皆様のご苦勞が本当にこんなにも身近に感じられたことは感謝する。私達も水の使い方ということで商工会の方でやっているが、いろんな意味で取り組みをしながら、皆さんで努力をしていかなければならないと痛感しておるので、大変ありがとうございました。

(上沼委員)

いろいろと資料を見させていただき、概ねこれでいくしかしょうがないと理解をしておる。ただ先ほども出たが、前回15年ぶりに値上げがされた。それから3年と少しでまた値上げ、それから4年ごとにまた見直していくということで、パーセントは減っていくが、計算してみると18%上がったときよりも今度の4年後の16%上げるときの方が、金額的には増える。そういう形で14%にしてもどんどん増えていく。その辺は前回の改定するときには、市長が自ら来て各地域で説明をしようと思ったと思うが、今回も市民の皆さんへの説明を、パーセントは減っているが金額的には今回の改定よりも、次の改定の方が試算で増える。負担が増えていくということも言っていないと、10年もたてば、今の金額の5割以上増えるような形になると思うので、そういう点も市民の皆さんに周知をして、今回の改定だけの理解をいただくのではなく、将来的なものも含めたことを理解していただくような形をとっていただいた方が良く思う。1回だけで終わるわけではないので、そんなことも頭の中に置いていただければと思う。

(鋤柄会長)

はい。ありがとうございました。では西村委員、お願いする。

(西村委員)

本当に膨大な資料と数字で、とても難しいのだが、本当によくシミュレーションされた資料をここまで作って、ご苦勞さまでしたという感じである。本当これを見ると、もちろん値上げはやむを

得ない。でも、市民にとっては厳しいことなので、今言われたように、これを見るとどんどんどんどん上がっていくように見えるが、そのときの状況というか物価も変わっていくので、そのままではないと思うし、これをこのままでいくとは言わずに若手の方とか、もちろんベテランの方の意見も継承しながら、より市民に優しい水道料金とか水道設備、本当に私は飯田市のお水は美味しいと思うし、この安全で美味しい水道水を安定して供給できるということは本当に素晴らしいことだと思うので、これからも施設を管理しながら美味しい水を届けていただきたいと思います。

(鋤柄会長)

はい。ありがとうございました。では木下委員、お願いします。

(木下委員)

今回本当にたくさんの資料の準備をいただき、そして、丁寧な説明をしていただいたことに感謝を申し上げたい。ただ、先ごろの値上げの印象がまだ残っている市民の方たちに、またこういった提案ということは私達にとっても本当に苦渋の決断をしなくてはならない。先ごろの値上げのときには局長がおっしゃったように中東情勢というものはなかったもので、致し方ないのかなと思うが、それを、市民の皆様方にご理解をいただけるような丁寧な説明を、今後していただきたい。

それから要望であるが、9ページの最後のところに飯田市における人口増に結び付く積極的な政策の推進をとお書きいただいているが、それとあわせて、水道水をたくさん使ってもらえるような企業の誘致を、水道の部門は関係ないよということではなくて、飯田市全体で、是非誘致に向けての活動を進めていただければということも要望したい。

(鋤柄会長)

ありがとうございました。皆さんのご意見も大体出揃っておる。まだこれから令和9年から令和32年なので23、4年期間がある、ひょっとしたらその間に素晴らしい技術が開発されるかもしれない。でもそんなことは当てにする訳にはいかないのが今現在はこうするという事。

今ナフサが手に入らないので、化学メーカーがどんどん受注を止めているという話を聞く。水道の管路の改修についても、かなり材料を使っていると思うが、そういった物の値段が上がるだけでなく、物が入らないということも考えられる状況ではないかと思う。いずれにしても粛々と改修工事を進めないはずという事は明らかなので、ホルムズ海峡が解決することを祈るばかりだが、いずれにしろそういう中で今後もやっていただければならないということである。

まだご意見はあると思う。ただ、皆さんのご意見を聞くと、やむなしという形であるので、その辺で集約させていただいてよろしいか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

そういうことであれば、料金の改定18%、時期については令和9年の4月、この辺のところについてはいかがか。

先ほど菅沼委員からあったもう少し先伸ばしということもあるかと思うが、この状況を考えると先伸ばしにすればするほど悪くなっていくのではないかという気もする。先ほど矢澤委員の方から、将来の子どもたちはどうなるのかという話が出たが、やはりその辺のところはよく考えなければいけないところでもあるし、できるだけ我々が負担する中で、将来は安全にしなければいけないということも、今現在生きている我々の責任であると思う。それを踏まえて、その辺のところ答申の形に持っていきたいと思うが、よろしいか。

(菅沼委員)

皆さんの意見をお伺いすると、今回の18%はしょうがない、ただその先に計画では16%とか14%があるが、これはまた別の話なので、今回諮問も大体18%ということなので、18%はしょうがないのかなと思う。たださっきもいろいろな方から要望が出ていたので、要望意見も附帯してもらわないと、このままという訳にはいかないと思う。

(鋤柄会長)

ありがとうございました。

諮問を受けた数字、18%と令和9年4月に関しては、皆さんご了承いただけるだろうか。やむなしというところであるが。

ただ、それについてもいろいろご意見があろうかと思うので、また意見として付けていきたいと思う。例えば先ほどの説明の中であった、物価高の中で一般財源がないのかといったご意見や、低所得者層に関するものもあった。その辺のところを、何らかの形でまとめて、附帯意見として付けられないかと思う。先ほど意見にあった市長がきちんと説明するということは当然かと思うが、それ以外に何か皆さんの方から、こういうことを附帯意見として、この審議会でつけたいというご意見があれば、お出しいただければと思うがいかがか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

先ほど、この物価高に対して対策はないのかというご質問があった。とりあえず今そういったことはないという回答であったが、ただその中でも低所得者層に与える影響はいろんな料金がある中で非常に大きいので、質問の中では福祉的な形で何かないかということであった。福祉的かどうかは別としても、一般財源の中から飯田市として何らかの手当ということはできないかということも含めていただけるとありがたいと思うが、これは私の個人の意見である。という訳で皆さんのご意見をいただけるとありがたいと思う。いかがか。

(菅沼委員)

全部覚えていないので申し訳ないが、録音をとっていると思うので整理してもらって、会長さんにお任せするのか、それぞれ委員さんにもう1回お諮りするのかわかりませんが、国への要望ということもあったし、今言われた市の一般財源についてはここだけでは返事ができないと思うし、非常に難しい判断が必要だと思うので、それは附帯意見として要望するかわからないが、そこは調整していただければと思う。

(鋤柄会長)

ありがとうございました。皆さんいかがか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

それでは今とりあえず、今回の改定率18%、改定の時期は令和9年4月1日ということに関しては、集約させていただきたいと思うのでよろしく願いいたい。

附帯意見を含めた答申案については、次回もう一度この会議を開いて、その中で再度皆様のご意見を頂戴しながら、進めてまいりたいと思う。そこで最終決定をするという形にしたいと思うがよろしいか。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

それまでに案を詰めていきたいと思うのでよろしく願いいたしたい。

(井田局長)

ご審議ありがとうございます。諮問に対しましてご理解いただきまして感謝いたします。

先ほど附帯意見の議論がありましたので、私が聞いていて整理すると、物価高高騰に対する支援というか、特に一般会計など他のところが水道事業会計の支援。それから私達に課された経費の削減努力。値上げに対する理解を得るための丁寧な説明をきちんと行う。そういった内容が挙げられたので、今日いただいたご意見を、附帯意見として整理したい。今ご用意いただいた中で、今日では難しいと思うので、次回の審議会では今日のご意見を反映した答申案ということでお示しさせて

いただき、その答申案についてご審議いただければと思う。特にこの答申案については、先ほど申しましたように付帯意見として今日お話があった点を踏まえて、一度記載をさせていただき、その点について次回ご意見ご審議をいただき確認していただきたい。よろしくお願ひしたい。

(鋤柄会長)

はい、ありがとうございました。

それでは次回に最終的な結論に持っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

次回の5月の日程だが、具体的には場所やスケジュールを考える中で、5月の14日か15日というところであるが、この日は駄目ということがあれば出していただきたい。できればこの二日のうちで決めたい。

(委員各位)

意見なし

(鋤柄会長)

よろしいか。それではこの二日のうちのどちらかで事務局の方からまた改めて皆さんに連絡をするので、よろしくお願ひいたしたい。

では、それ以外にも何かその他、ご意見があるか。

(柳澤水道課長)

先ほど会長から、中東情勢の話があったので、私どもで得ている情報を話させていただく。

令和6年度から、ダクタイル鋳鉄管に代えて施工性の良い、水道配水用ポリエチレン管というものを使っておる。このポリエチレン管がナフサを使用して作っている。最近の話だが、業者から1週間ほど受注停止という話があり、今は再開をしているが、そういった材料にも影響が生じている状況である。あと配水用ポリエチレン管の他に、ダクタイル鋳鉄管というものも水道局では使っておるが、これについても塗料が必要になるが、この塗料の方も生産的に厳しいという話が来ておる。こういった水道管の材料についても、水道局としては注視しながら動向を伺っていく。

値段についても上がってくるという情報がある。そういった情報が入ってきている。

(鋤柄会長)

はい、ありがとうございました。

7 報告事項

(鋤柄会長)

それでは、報告事項はあるか。

(加藤経営管理課長)

なし

8 その他

(鋤柄会長)

全体を通して皆さんから何かあるか。

(委員各位)

なし

(鋤柄会長)

それでは市側からお願ひしたい。

(井田局長)

大変ご審議、ありがとうございました。

先ほども少し触れたが、私たち諮問させていただいた大きな項目として、料金改定水準の18%、改定時期の令和9年4月1日、こちらにつきまして委員の皆様で意見を集約していただき、一定の

ご理解をいただきましたこと感謝申し上げます。

私たち水道事業者として市民にこのような苦渋のお願いをする状況ではあるが、皆様に安定して美味しい水を供給するためには、やむを得ない選択をさせていただいた。その点についてご理解いただけたものとして、さらにしっかり私たちの水道を守って皆様にお届けしたいと決意を申し上げます。大変ありがとうございました。

次回であるが、いろいろとご意見があるので、私たちに対してこの点をしっかりやることとして、この審議会での附帯意見を付けての答申案なので、その意見についてもしっかり受け止めたいと思うので、よろしく願いしたい。

本日はいろいろなご審議、誠にありがとうございました。次回についても、大変お忙しい中お時間をいただきましてご審議いただきたい。

ありがとうございました。

9

(鋤柄会長)

それでは、長時間にわたり、皆さんいろいろなご意見ありがとうございました。

以上で、令和8年度第1回飯田市上下水道事業運営審議会を閉会とさせていただきます。